



川の砂や石の中で、金が見つかることがあるの

見つかることがある

金をふくむ鉱物が、地中にまとまってうまっている所を、金鉱床といいます。金鉱床には、1トンにつき、5～20グラムの金が入っています。

金鉱床が長い年月の間に、雨や風、川の水のはたらきなどによって、小さくくだかれます。すると、金のつぶが、砂や石などと一緒に、流されていきます。

川の曲がり角の内側は、流れがゆるやかになっています。上流から運ばれてきた金のつぶは、砂や石などと一緒に、川の曲がり角の内側などに積もります。この金のつぶを砂金といいます。

金のつぶは重いので、砂や石などの下にしずみます。このように、川の上流に金鉱床がある所では、川の砂や石の中で、金のつぶが見つかることがあります。

金鉱床にふくまれる金が、川の水によって運ばれてくるので、砂金は、金鉱床から遠くなるほど、金のつぶが小さくなります。

日本では、北海道や東北地方などで砂金が見つかる

日本では、東北の北上山地や、北海道の石狩川、雨竜川、空知川などが、砂金とれることで有名です。（監修・国司 真）

